

木材利用の推進について

- 1．木材は人と環境にやさしい素材
- 2．木材の利用は森林の整備・保全を通じて地球温暖化防止に貢献
- 3．木材利用の取組状況

平成15年12月4日

農林水産副大臣 金田英行

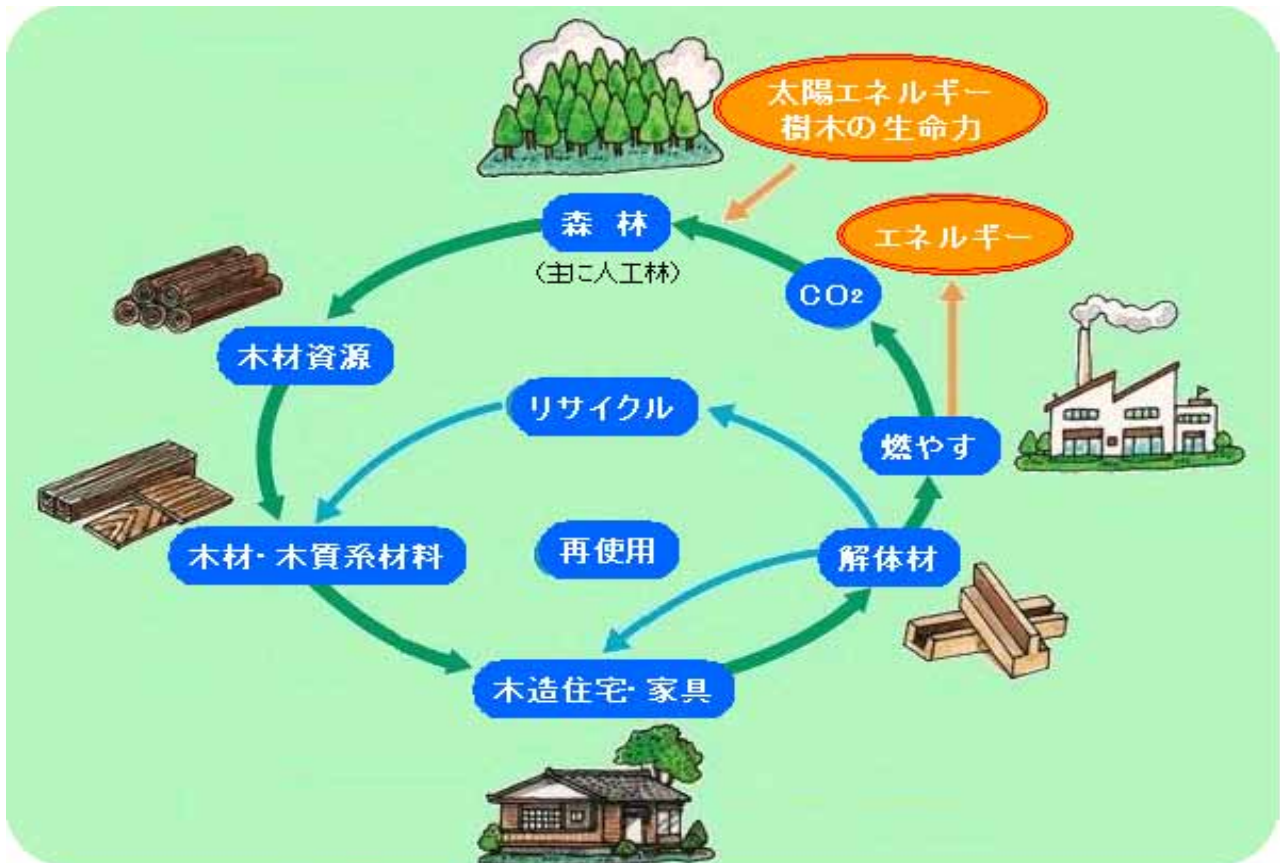
(2) 木材は環境にやさしい循環素材

(木材は再生産可能)

木材は、太陽エネルギーと樹木の生命力によって、繰り返し生産することができる。

(木材は再利用可能)

木材を住宅や家具に使用し、使用後も他の製品として再利用することができる。



(エネルギー消費の低減)

木材は加工時に必要なエネルギーが小さいことから、他の素材に替えて木材を利用することにより、消費エネルギーを少なくすることができる。

加工時に必要なエネルギーは

- ・アルミの製造時の3/40分の1
- ・鉄の製造時の8/10分の1

(バイオマスエネルギー源として利用)

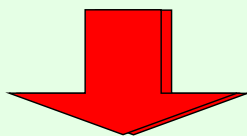
石油等の化石燃料の代わりにエネルギー源として利用することで、化石燃料の消費を減らすことができる。

2. 木材の利用は森林の整備・保全を通じて地球温暖化防止に貢献

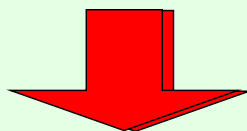
「地球温暖化対策推進大綱」における位置づけ

(地球温暖化対策推進本部)

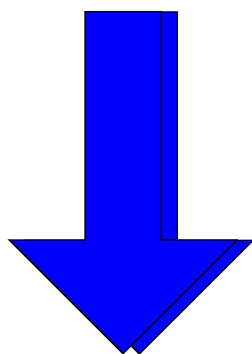
我が国の森林経営による吸収量として、基準年(1990年)の総排出量比3.9%の吸収量の確保を目標とする。



現状程度の水準で森林整備、木材供給、利用等が推移した場合は、確保できる吸収量は対基準年総排出量比3.9%を大幅に下回るおそれがある。



森林の整備、木材供給、木材の有効利用等を着実かつ総合的に実施することが不可欠。



- ・我が国の森林の4割を占める人工林はその多くが未だ育成途上であり、間伐等の森林整備の着実な実施が必要
- ・間伐等の森林整備を進めるためには、間伐材を利用することが必要(別紙2)

「地球温暖化防止森林吸収源10カ年対策」の展開(農林水産省)

- (1) 健全な森林の整備
- (2) 保安林等の適切な管理・保全等の推進
- (3) 木材及び木質バイオマス利用の推進
- (4) 国民参加の森林づくり等の推進

3. 木材利用の取組状況

(1) 政府全体の取組

木材利用推進関係省庁連絡会議の場等を通じて、関係省庁が連携して、木材利用を推進

(総務省、厚生労働省、文部科学省、国土交通省、
環境省、農林水産省で構成)

「国等による環境物品等の調達の推進に関する法律（グリーン購入法）」の環境物品等の調達の推進にかかる基本方針では、文具、機器類等においては、「木質の場合にあっては間伐材などの木材が使用されていること」、公共工事に用いられる資材においては小径丸太材（間伐材）が品目として明記されており、国等により優先的な調達に努めているところ。

(2) 農林水産省の取組

民間部門の先導役として、農林水産省自ら木材の利用拡大を図る「農林水産省木材利用拡大行動計画」を策定（別紙3）

「先づ隗より始めよ」

原則 木造・木質化・木製品

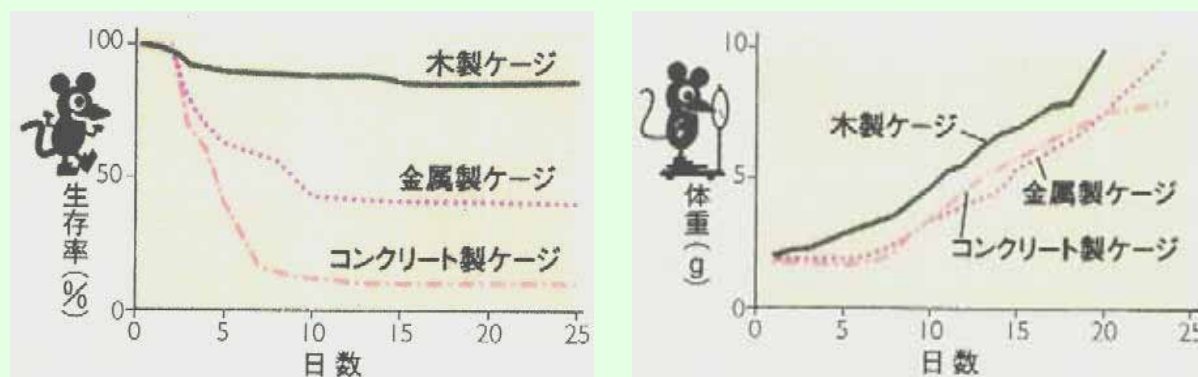
- ・公共土木工事の安全柵、手すり等の柵工を木製100%
- ・林野公共工事（土留工等）における木材使用を現状の2倍
- ・補助事業の対象施設は木造率100%
- ・本省内廊下の腰壁を木質化
- ・森林管理署等の庁舎を木造化
- ・本省の課・室長以上の事務机は原則木製品
- ・業務用茶封筒は原則間伐材封筒を使用

(3) 林野庁の取組

- ・木材フェアを開催し、木材の良さなどについて国民への普及啓発
- ・森林所有者、住宅生産者及び消費者までの連携強化等による「顔の見える家づくり」の推進
- ・文部科学省や厚生労働省との連携による学校関連施設、児童福祉施設（木製遊具）への地域材利用の促進
- ・木質バイオマスエネルギーの利用促進

素材の異なるゲージでのマウスの生存率と成長

マウスを使った実験では、木製の飼育箱で生活するマウスの方が、金属やコンクリートの飼育箱より生存率が高い結果がでている。体重の変化を見ても同様である。



素材の異なるケージでのマウスの生存率と成長

(伊藤他 静岡大学農学部 (1987))

シロアリが好む木、好まない木

シロアリの巣にスギやオウシュウトウヒ (ホワイトウッド) を置いて、どの程度喰われてしまうのかの試験を行った。試験開始から1ヶ月後に取り出してみると、スギはほとんど変化が見られないが、オウシュウトウヒ (ホワイトウッド) はシロアリに激しく喰われて試験片が小さくなっている。



(独立行政法人 森林総合研究所)

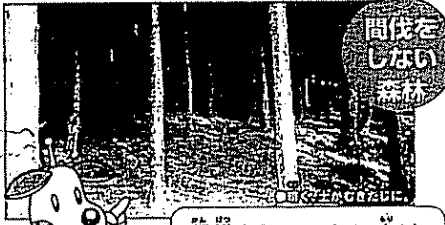


地球温暖化防止と木材の利用

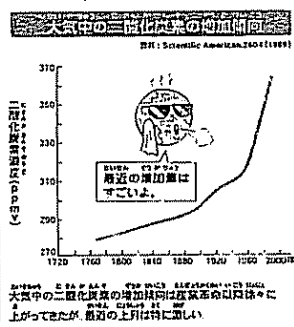
(チビク) ものしらのロボット犬、ケンタといっしょに行方している。
(ケンタ) いつも元気なチビク5年生、前足はまっつとニガテ。

ケンタとチビクの森林レポート!!

間伐とは、成長過程で過密となった森林に対して、木を伐って適正な本数にすることで、間伐をすることで生き生きとした森林が保たれます。また、木を伐った後に苗木を植えるような伐り方を主伐といいます。

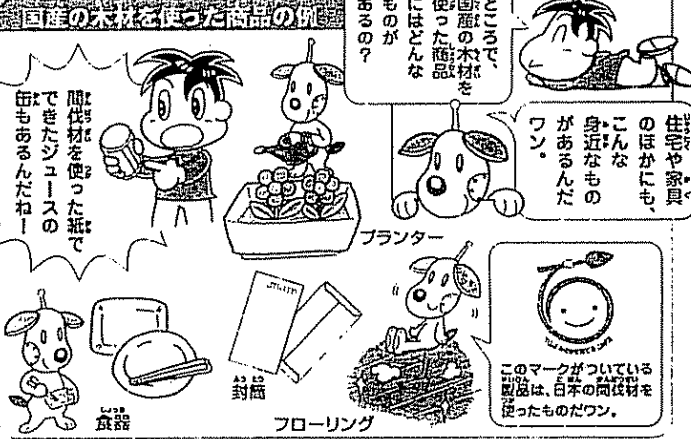
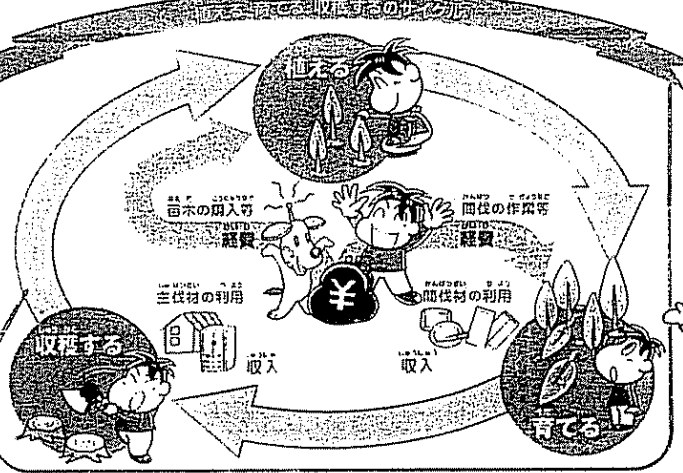


間伐をしていない森林は元気がないワン。



日本は「二酸化炭素の排出量を減らす」「京都議定書」という国際的な約束をしているワン。

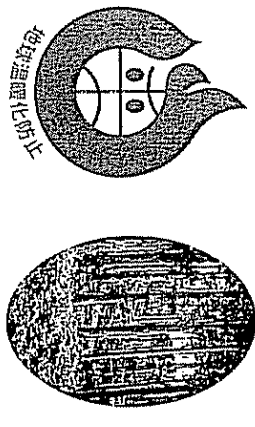
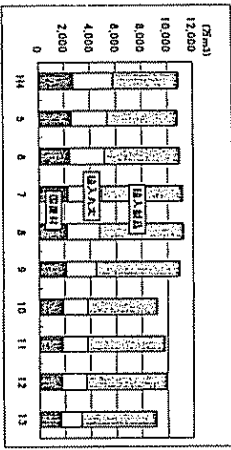
「京都議定書」とは地球温暖化問題防止のための国同士の約束のことで、日本は排出目標減分のうち、2/3を森林の吸収量でカバーしようとしています。



農林水産省 / 林野庁 木材課 ☎03-3502-8111(内)
林野庁ホームページ <http://www.maff.go.jp/> (林野庁ホームページ) <http://www.rinya.maff.go.jp/>

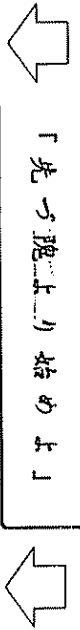
農林水産省木材利用拡大行動計画 ～木を使う行動計画～

木材需要量の推移



「地球温暖化防止森林吸収源10年対策」(平成14年12月)：農林水産省策定)において、木材の利用推進は重要な柱の一つ。

木材需要量は依然減少傾向にあり、公共部門において木材の先導的役割として役割を果たしていくことが重要。

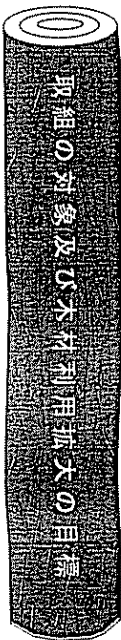


農林水産省自らがより一層の木材利用の拡大に取り組む「農林水産省木材利用拡大行動計画」の策定

原則 木造・木質化・木製品



1. 農林水産省・関係機関を牽けて取り組む
2. 具体的な目標を設定し、検証
3. 平成15、16年度を第1ステップとして実施
4. 取組みの普及促進



公共土木工事

◎「ゲリーオン公共事業の推進」という取組方針の下に、木材の使用を増加する。
・掘削工 木製100%
・土留工等 木材の使用量を現状の2倍程度へ

補助事業対象施設

◎補助事業の対象施設は、木造率100%
・豊林漁業体験施設
・地域資源活用総合交流施設等

庁舎等の施設

◎本省内顧下の庁舎の木質化を推進
◎森林管理署等の庁舎の木造化を推進

事務机等の備品・消耗品

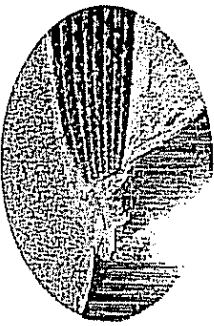
◎本省の課・室長以上の事務机は、原則木製品へ
◎業務用茶封筒は、原則間伐材封筒を使用



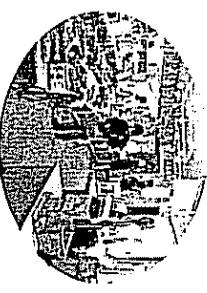
◎新たな分野において、木材の利用をモデル的に実施
・間伐材を利用した設置式木製型枠の利用
・間伐材を魚礁に利用等



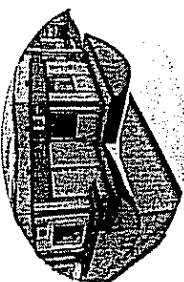
掘削工



木製土留工

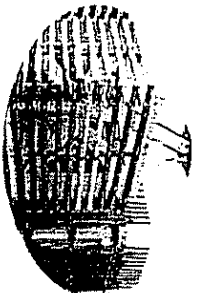


豊産物産施設



庁舎 (米代東部森林管理署)

間伐材を原料とした紙により封筒を製品化 (間伐材1.5%、古紙85%使用)



魚礁

(参考) 木材利用の取組の事例

大型の多目的交流ホールを木造で建設

福岡県矢部村では地域住民の交流やレクレーションの場として、さらには森林が9割を占める村のシンボル施設として、地元産のスギ丸太材等を用いた交流ホールを建設(林野庁補助事業)。

名 称	矢部村多目的交流ホール「木 ^{もくりゅう} 龍」
場 所	福岡県八女郡矢部村大字北矢部11075番地
規 模	桁行42m、梁間21.6m、高さ12.9m 床面積887.39㎡
木材使用量	244.94m ³



木造 3 階建ての職員宿舎を新設

東北森林管理局では、より一層の木材利用の拡大に取り組むこととして、木造 3 階建ての職員宿舎を新築中。

場	所	秋田市手形字山崎 9 2 - 5 - 1 3
規	模	木造（在来構造）3 階建 2 4 戸
	建築面積	5 1 2 . 2 7 m ²
	建築延面積	1 , 3 9 5 . 5 3 m ²
木材使用量		2 7 6 m ³



公共土木事業において木材を利用

国有林治山事業において、コンクリート床固工を施工する際、施工箇所周辺が景観地であることを考慮し、木製型枠を使用。

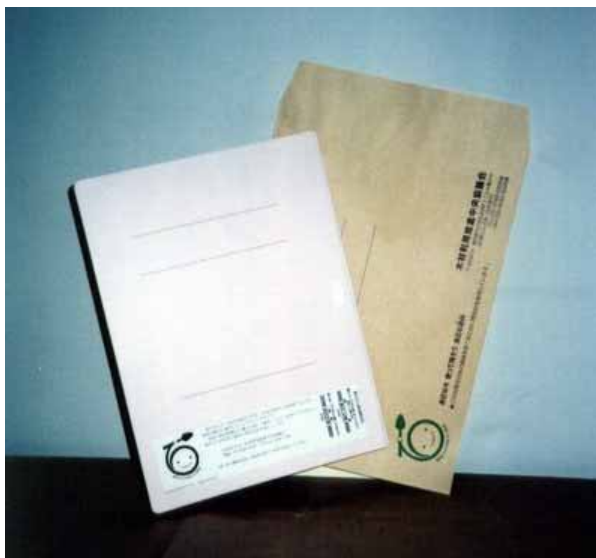
場 所	北海道旭川市
延 面 積	777m ²
木材使用量	47m ³
主 な 樹 種	カラマツ



業務用に間伐材封筒を使用

製紙・印刷企業、NPO、林野庁などによる「日本の森林を育てる紙についての勉強会」の活動を通じて、間伐材15%、古紙85%からなる間伐材封筒を販売。

農林水産省では、この間伐材封筒の使用を推進。



間伐材マーク

紙缶飲料製品を利用、普及

間伐材や端材等の国産材チップを約3割使用した紙製の缶飲料製品（「カートカン」）について、農林水産省では、地方出先機関も含め、会議やイベント等の際に利用するよう働きかけを進めるとともに、間伐材パネル付きの紙缶飲料自販機を中央省庁として初めて設置。

